



414
A 417



参議院創設ノ議
 近且我が憲政党内外ノ情態ヲ察スルニ實ニ
 深ク憂慮スベキモノアリ蓋シ内閣ハ改々トシ
 テ政務ヲ執掌セラルモ主員任アルノ行為ハ責
 任ナキノ放論ニ伴フ能ハサルハ勿論ナルヲ以テ
 其ノ実行ニ現ル所ノ者未ダ以テ吾民ヲ滿
 足スルニ足ラス政黨欠ハ内閣ノ為ス所ヲ優漫
 ナリトシテ横議攻訐ヲセントスルニ至シリ近日
 各地團體ニ唱道セラル所ノ根本的革新
 藩閥異分子ノ淘汰官吏任用令全廢スベ
 シト云フ如キ者足レナリ
 尙ク内閣ハ任用令ラ或ル程度ニ改正シテ學子



問的出身ノ者、外ヲ取ラザルハ其ノ改正ハ以テ一般
果シテ然ラバ僕恐ラクバ其ノ改正ハ以テ一般
ノ虎御ヲ満足スル能ハガランヲテ必ズヤ全
度ト改正トノ間ニ衝突シ免レザレトス
内閣ノ趣意誠ニ理アリ然レ比天下ノ事ハ
理常ニ勢、為メニ制セラル新田楠ノ正義
モ足利ノ領地分与策ニ勝ヲ得タル者モ之
レカ為メノニ勢トハ何ゾ真向ニ之レヲ言ヒド多
教虎父ガ官、職ヲ希望スルニ乘ジテ其ノ間
不平樂教馬ノ士ガ之ニ和スル者アルト内閣が就
職以來未ダ眼ニ立テ改革ヲ発表セザルヲ
以テ人心漸ク倦ミテ何カ事アレガシナルニ因

ラオハ者ノ

余輩ノ心事ヲ以テ之レヲ言ハ、我々ハ滿洲ヲ打
破シテ之ニ立憲政体ノ完美ヲ期シテ幸甚幸甚
言ヒタル者ノ其ノ目的トシタル所既ニ八分也
達シ政党内閣粗ボ其ノ端ヲ開ケリ當ニ以テ
欣喜スベシ何為レゾ皆々汲々トシテ瑣々タル刀
筆ノ吏タルヲ之レ論マシヤ若シ政府ニ於テ
我非軍ヲ用元ノ仕向アリ我非軍又自ラ事
ニ當ルヲ以テ吾家ニ利アリトセバ之レニ當ルハ
セザルベキノ之徒ラ其ノ器ニ非ラズレテ事ニ當
ラレトスル不為ナルヲ勿論ナリト
然リト雖奉テモボシ漢ヲ建ツハヲ以テ満足シ

去ラ赤松子ニ伴フテ遊ハレトスルノ留候ハ在ニ水
ハ可ラズシラ切ラ頼ミテ存王ヲモ甘ミガハルノ
准陰ハ帝ニ多クシ是レ改作家ノ須ラク潛心講
●宛スベキ所ナリ

我玉今日ノ政權授受ノ情態ハ現時改米内
閣文選ト其ノ論勢ヲ同フセズニ十年來ノ苦
辛ハ何ノ為メゾ政變久多クハ其心ニ薩長ノ權
姿ヲ嫉惡シ其ノ權勢ヲ羨望シタルニ出ヅル者
アリ然レハ昨日迄ノ年ヲ共ニシテ粗糲ヲ食シ
布衣ヲ相擁シテ弊屋ニ宿シタル同友中ニ
甲ハ官舎ヲ大慶ニ任シテ双馬車ヲ駈ルニ
ハ茅屋ニ僦居シテ平朝ヲ支ヘザルノ實況

ナリトセバ人情果シテ平穩ナルヲ得ベキヤ否ヤ
之レニ對スルハニ徳義ヲ以テシ之レヲ避クルニ秩序
ヲ以テスルモ千鳥中一ニ君子人ハ知ラズ之レ
ヲ以テ一般ノ俗世界ニ行ハルノ勢ヲ制シ得ベキ
ヤ否ヤ僕甚ダ之レヲ危ブムナリ
若シ政党内閣ノ生立英玉ノ如ク既ニ教代ヲ
経タル者ナリセバ政党内閣ノ創設ノ切ニ誇ル
者ナクシテ只其人ノ理財器ヲ表出トシテ故
ヲ議論ナカルベシ甚シサヘモ内閣ニ十有九名ノ
大臣アリ是レ果シテ何ノ為メ此クノ如ク其レ多
キヤ其ノ實情ヲ推セバ政党内閣ノ多數ヲ服セシム
ルガ為メニ外ナラザルナリ況シテ我玉目ノ政黨

ニ於テ多少ノ煩累アルハ寧ロクハ然ノ教ト謂フ
ベキナリ

故ニ此ノ如クニシテ之レ後知スルノ道ヲ講セザン
バ家ニ三種カナル道理ヲ假ツテ内閣ニ由リテ相
衛突スルニ至ルハ已ム可キナル教ナリトス而シテ
若シ近口ニ開カレベキ官憲改定大會ノ決議ニシ
テ内閣ト意見ヲ異ニスルアル果シテ如何ナル
歸決ヲ以テ已リ可キカ實ニ其後慮ス可キ事
タリ若シ在平ニシテ調停算ルアルモ其ノ失
體タル甚シク内閣ノ威信ヲ損スルノ容易
ナリナル者アリ況ンヤ不信認者ノ情勢カテ
現ズルアルニ於テオヤ

然ラバ別文官任用令ヲ全廢ス可キカ僕思フニ
之レヲ全廢スルニ没道理タルハ勿論ナリ然レモ
勢ヲ利通スルニ政治家ノ事タリ官ノ口之レヲ
全廢シテ任用ノ場合ニ他ノ註考ノ法ヲ設クルヲ
以テ可トスベシト然レモ内閣ノ既ニ程度ノ改正ト定マ
リタリト聞ク果シテ然ラバ甚ダ惜ム可シ歟トクバ
之レヲ全廢セシメテ是レ人ヲ用中ガハ近モ内
閣ヲ開キタルモノニシテ以テ事分カ人心中安んズ
ベキナリ

新政府ニ於テ如何ニ拘ラズ政院欠ラシテ
悉ク官職ニ満足セシムルカ如キ没道理ノ事ハ
行フ可キナリハ勿論ナレバ之レヲ御ス自ラカナ

カル可ラス

今テ中内閣が政党ニ対スル責任ヲ他ニ利通スルノ
 様固備ハラス故ニ一朝政党ト内閣ト相撞着
 也バ家ニ如何トモス可キハ至ラントモ殊ニ今テノ
 制度ニシハ其ノ相撞着スルノ様會ヲ益々多
 カラシメントス僕印時佛之蘭西有名ノ法学者
 ブーフ氏ノ著述ニ係ルコトアドミストラレヨシテ讀
 ミ佛國ニハコソセーエデタレ昂々議院ノ設ケ
 アリテ自ラ内閣ノ責任ヲ欲ツノ道アルヲ感
 シタリシコトアルヲ以テ今其書ヲ譯スルニ是書
 庫ニ散流シテ見当ラズ巴ムヲ得ズドラクル
 チイ山氏ノコレゲスラレヨシ中ニコソセーエデタレ

係ル一部ヲ抄譯シテ之ヲ別冊ニ添ヘタリ其
 ノ評ナルハ不日刊スルヲ得バ之ヲ翻譯シテ
 左右ニ呈セントス物ハクバク加ヘラレシコト
 詳細ニ其ノ向キ存者ヲシテ取調ベシメバ可クハ
 才モ今僕ノ私書也ノ概若ク在レ記載スベ
 シ

一各議院ヲ内閣ノ附屬トシテ設ケ其ノ議
 官ヲ四十名乃至五十名トシ議官補ヲ三十
 名乃至四十名トスベシ

一書記官ヲ二十名乃至三十名ヲ置スベシ
 一議官議官補ハ貴衆兩院議員中一勢力
 アル士又ハ政党内即チカアリ又ハ有力人又

一行政官吏中ヨリ之ヲ任スベシ
一議官議官補ハ總テ勅任トシテ其ノ黜陟
ヲ奏上スルハ内閣ニ於テ之レヲ奏手リ之レヲ據ル
從スルノ自由ヲ存スベシ
一其ノ職務ハ概テ佛國ノ制度ノ如ク議會ニ
提出スル總テノ議案及ビ内閣ノ諮問ヲ議ス
ル者トシ且別各中會ノ裁決ニ不服ナルモノ
ヲ裁決判決スルトシテ行政裁判所ヲ廢シ
行政裁判所ノ職務ニ部ヲ司法裁判所
ニ移シ他ノ偽テ各議院ノ裁決スベキ者トス
ルカ又ハ佛國ノ如ク行政裁判所ノ上訴ヲ受
クル所トスルモノナリ

一法制局ノ職務ハ總テ各議院ニ移シテ之ヲ
廢スル可シ
一右者ノ各事官ノ職務モ亦各議院ニ移
ス可シ
一經費ハ凡ソ二十萬圓程ニ定ル可シ法制局
及ビ右者各事官ノ經費ヲ移シ又ハ行政裁
判所ヲ廢セバ經費ノ半額分ヲ助ケル可シ然レバ
別款ハ費ス所少クシテ便利ナル者多クあり
一該ニ經費ニ就テ謂ハシニ年俸三千圓ノ議官
ヲ四十名トスルハ十二萬圓ニテ五百圓乃至二千五
百圓ノ議官補ヲ三十名トスルハ平均六萬
七千五百圓ノ圓ヨリ二千圓迄ノ書記官ヲ

三十名トスレバ四萬五千円雜給ヲ七千五百円
トスルモ物計俸給ニ於テ凡ソ二千三百萬円總
費五萬四千トスレバ二千八萬四千ニテ足レリ總金三千
萬四千トスルモ之レヲ以テ治國ノ權限ヲ作り永
ク内閣ノ命脈ヲ保ツヲ得バ豈ニ好カラズトセ
ンヤ

右ノ如キ組織ナルヲ以テ其ノ勢力カヲ失ヒタル者又
ハ老朽用ニ堪ヘザル者ハ之レヲ黜クルモ内閣ノ
欲スル儘ナルノ之ヲ即シテ一月ニハ政令ヲシテ開
易スル職ニ在ラシメテ其ノ政令上ノ實際ヲ孰
知セシメ其ノ地位ヲ高クナラシメ他日ノ地位ヲ
為サシム可ク内閣ノ意志自ラ政黨ニ疏通

シテ彼此相干格スル一鮮ク内閣ニ在リテ其ノ
濫ケテ政黨ノ操縦ヲ自由ニスル一ヲ得可シ且又情
實ノ上ヨリシテ大概ナル無能者ヲ採用スル一アルモ
合議体ナルヲ以テ決シテ其ノ弊非シ政令上ニ受ク
ル一多カクシテ彼ノ無能ノ士ヲ擧ゲテ人民ノ
休戚ニ直接ニ少クシテ其ノ弊非シ政令上ニ受ク
ニ成ル此議院議院補中ヨリ大臣以下公使
局長又ハ府縣知事ヲモ出スル一アルベキナリ
ニ今日ニ在リテハ至妙ノ政治機關ト云フ可ナリ
聞ク獨ニ國ニモ亦此ノ設ケアリト然レバ僕未ダ
其ノ事ヲ讀ム故ニ早ニ佛國ノ制度ヲ抄譯
シテ左右ニ呈スルノ之近日ノ中ニ詳細ナル説

